

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32415

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02164

研究課題名（和文）成長に応じるスーパービジョンモデルとバイザー研修・支援システムの構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Construction of a Model of Supervision that Responds to Supervisees' Growth and Supervisor Training and Support System

研究代表者

潮谷 恵美 (Shiotani, Emi)

十文字学園女子大学・教育人文学部・教授

研究者番号：70287910

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はソーシャルワークにおけるスーパーバイザーの専門性向上のための成長ニーズに応じたスーパービジョンモデル、効果的なスーパーバイザー養成・育成研修プログラムや支援システムを提示することとした。先行研究の検討結果からこれまでの検証における実践分野の偏りや成長の指標、スーパービジョンモデルの効果等の成果活用や評価に検討課題があることを確認した。加えてスーパーバイザーのニーズ調査から、スーパービジョン関係、業務での困難、課題の焦点化等がアセスメントを生かして行われ、スーパービジョンの知識、方法や内容の共有、意図的な契約が有効であると考察した。バイザー研修、支援の検証は今後の課題となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでソーシャルワーク・スーパービジョンにおいて、スーパーバイザーの成長に応じたスーパービジョンモデルが提示され、検証されているものは多くない。本研究によって専門職としてのソーシャルワーカーの成長ニーズを捉え、また、それを踏まえたスーパービジョンの有効性を検証することによって、より効果的なスーパービジョンモデルが提示され、その活用が期待できる。ひいては、地域共生社会の実現に向けて、必要とされるソーシャルワーク機能が発揮できるワーカー育成に貢献できることも想定される。さらに、持続するスーパービジョン体制を作るために、有効なスーパービジョンを行えるスーパーバイザーの養成、育成へも貢献も考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to present a supervision model, an effective supervisor training program, and a support system according to the growth needs of supervisee in social work to improve their expertise. Based on the results of previous studies, it was confirmed that there are issues to be examined in the utilization and evaluation of results such as bias in the field of practice and growth indicators and the effect of the supervision model in the verification so far. In addition, from the needs survey of supervisors, it was considered that supervision-related matters, difficulties in work, and focusing on issues were carried out using assessments, and that supervision knowledge, sharing methods and contents, and intentional contracts were effective. Visor training and verification of support have become issues for the future.

研究分野：社会福祉 ソーシャルワーク

キーワード：ソーシャルワーク スーパービジョン スーパービジョンモデル スーパーバイザーの成長ニーズ

1. 研究開始当初の背景

(1) 「地域共生社会」にむけたソーシャルワーク専門職への期待

国が推進を図っている「地域共生社会」の実現にあたって、ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士に期待される役割が検討されている。その中で、複雑化、多様化している他分野にわたる生活課題に対して、質の高いサービス提供ができる福祉人材育成が喫緊の課題となっている。

そして、ソーシャルワーク・スーパービジョン(福祉サービスの提供者であるソーシャルワーカーの実践を教育的・管理的・支持的機能等を活用し、支援・指導する過程・方法、以下、スーパービジョンと呼ぶ)の教育・研修体制の充実と効果評価研究の進展が期待されている。

ソーシャルワーク・スーパービジョンは、国際的にもソーシャルワーク専門職養成・育成において、不可欠なものとして捉えられ、ソーシャルワーク養成や職能団体によって、ニーズに応じられる、専門性の高いソーシャルワーク実践に必要なものとして、スーパービジョンの活用が提示されている。

(2) ソーシャルワーク専門職育成、養成におけるスーパービジョン活用の課題

現在、日本でも社会福祉士養成の基本的なテキスト等においては、kadushin, A. & Harkness, D. が提示した、スーパービジョンの3つの機能、教育的機能、管理的機能、支持的機能の定義などが広く教育や専門職育成の研修等で提示され、よく知られることとなっている。さらに、諸社会福祉専門職能団体の行うスーパービジョン研修会や認定社会福祉士制度において実施される研修においても、スーパービジョンの機能の提示はされている。一方で、理論研究等では野村(2015)は日本におけるスーパービジョンに関する動向を「多様な社会福祉専門職により、その重要性が指摘され、定義と独自の概要が示されている」と述べている。さらに、スーパーバイザーの養成と育成の体制は十分に整っていると言えない状況であるという指摘がある。恒常的にソーシャルワーカーの専門性を高め、維持することが可能となるスーパーバイザー養成・育成に関し、実証的検証を踏まえて、研修等の充実を図る必要があるが、スーパービジョンの成果や展開の評価も十分とは言えない。

2011年に始まった認定社会福祉士認定・認証機構による認定社会福祉士制度は、社会福祉士が行うソーシャルワーク実践の向上に貢献する1つとして捉えられる。本機構では「認定社会福祉士制度 スーパービジョン実施要綱」によるスーパーバイザーの登録ならびにスーパービジョンが開始されており、認定社会福祉士認定・認定機構 HP のリストでは2017年10月現在494人がスーパーバイザーとして登録されている。スーパーバイザーからの評価やバイザーの養成・育成成果の検証、モデル提示はまだ途上にある。これらを踏まえると、日本で実践されているソーシャルワーク・スーパービジョンに関して、理論的整理と評価がどのようになされているかが問われる。加えて、専門職の育成・養成におけるスーパービジョン活用の実践的課題をふまえ、スーパーバイザーの専門性向上のための成長ニーズに応じた、スーパーバイザー養成・育成がどのような内容と段階を設けて行われることが望ましいかを踏まえたスーパービジョンを検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、日本で行われているソーシャルワーク・スーパービジョンの代表的な実践に着目し、共通構造や独自性を踏まえた、ソーシャルワーク・スーパービジョンの実践展開に関するモデル提示、スーパーバイザーの専門性向上のニーズや成長プロセスに焦点をおいたスーパービジョン展開、それを可能とするスーパーバイザーの段階的研修・支援に関する指針の提示を目的とした。

3. 研究の方法

方法としてスーパービジョンの研究者としての理論化や実践提示に先駆的役割を果たしてきた方々の実践、研究成果からソーシャルワーカーとしての成長過程に対応したソーシャルワーク・スーパービジョン展開を焦点化して検証した。そして、現在進行しているスーパーバイザー養成・育成研修・支援の課題抽出を行った。さらに、ソーシャルワークの質の向上に資する恒常的な、スーパーバイザーの育成課題に応じられるスーパービジョン課程と体制の確立、スーパーバイザーの養成・育成研修、支援の充実を図る指針を提示することとした。

具体的には、国内外のソーシャルワーク・スーパービジョンの実践検証、先行研究の分析、評価より、スーパービジョン、実施体制、研修モデル提示の試案を作成の為に課題を析出し、モデル提示を試みた。認定社会福祉士制度におけるソーシャルワーク・スーパーバイザー養成・支援評価の実態調査、諸スーパーバイザーにおける養成、育成に関する評価を踏まえた、スーパービジョンへのニーズ、実態調査。スーパーバイザーの成長ニーズに応じたスーパービジョンを実現する展開モデルの提示並びにスーパーバイザー研修、支援体制の指針提示を試みることにした。

研究役割分担としては、文献の収集、分析は研究代表者、分担研究者それぞれの専門領域を中心に収集し、各分野ならびに分野横断の検討を行った。それらの結果を踏まえて、スーパービジョンモデルの検討につなげた。さらに、ニーズ調査についても研究代表者並びに分担者が共同して調査項目の検討と協力者の依頼、調査実施、結果分析を行った。

4. 研究成果

(1) スーパービジョンに関する国内外の先行研究の収集、データ再分析を踏まえて、スーパービジョンの実践モデル案の構築を進めた。スーパービジョンのモデルはスーパービジョンに関わる人や組織、展開(サイクル)、機能(影響や効果を含む)、価値・倫理、ソーシャルワーク実践の焦点の要素を複合した構成要素と構造を持っているものとして提示する必要があることを確認できた。検討を踏まえてモデル試作を行った。

スーパービジョンに関する実証的な研究は国内では近年増加している傾向があり、機能や着眼点、体制の要点などの検討結果は確認できた。しかし、援助実践の領域の偏りやスーパービジョンを評価する指標に関わる検討、また、国外の研究、スーパービジョンモデル提示、検証成果等の活用に至るには課題があることが確認でき、検討を続ける必要があるとした。

さらに、ソーシャルワーク分野、近接対人援助領域、人材育成領域の成果の比較検証から見直しを図った。人材育成領域のスーパービジョン、成人発達理論、経験学習理論等の研究成果も合わせて検討に加え、モデル案の修正を行うことができた。スーパービジョンに関わる複合的な要素が相互に関係するシステムとしてのモデルの必要性が確認できた。

(2) 認定社会福祉士制度におけるソーシャルワーク・スーパーバイザー養成・支援評価の実態調査、諸スーパーバイザーにおける養成、育成に関する評価の実態調査の計画については、認定社会福祉士制度におけるスーパービジョンに限る制限をした対象とせず、広くソーシャルワーク・スーパービジョンに関するニーズ調査とし、対象を広げて検証を行った。

プレ調査において、スーパーバイザーの成長段階に応じたスーパービジョン実践に必要とされる態度、技術、スーパーバイザーの役割、その他の要素を検討した。結果として、基本的な関わり技法とともにスーパービジョンの展開におけるスーパーバイザーのアセスメントと介入技法が活用されることと、特にスーパーバイザーがソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの課題を焦点化できる働きかけが要点となることが確認された。結果を踏まえ、研修モデルの試案を検討した。

さらに、先行研究やプレ調査結果から、初任者をはじめとして成長に応じたスーパービジョンのニーズ把握を的確に行うには、インタビューのみではなく、スーパービジョンの基本的知識の提示と確認を含めた調査方法を開発する必要があることが研究課題として確認された。そこで、具体的なソーシャルワーク・スーパービジョンの知識の提示と確認を組み込んだニーズ把握の方法を考案した。2023年3月に高齢者施設従事者に試行的にインタビューを行い、調査内容の確認やインタビュー実施についての意見を得た。それを踏まえて、調査内容の改訂の検討を行い、本インタビュー内容を確定した。

本調査はソーシャルワーカーの業務経験の段階を設けた対象にソーシャルワーク・スーパービジョンのスーパーバイザーのニーズ、期待とワーカーとしての成長とスーパービジョン活用についての半構造化面接の方法により、聞き取りを行った。期間は2024年1月から2月中であった。福祉施設、医療機関、地域におけるサービス提供機関に所属し、かつ、経験年数が1~3年程度の初任者5名、4年~10年程度の中堅職員11名、10年以上の職場における指導的立場もしくは管理的立場のソーシャルワーカー9名に対して研究代表者ならびに分担研究者から協力依頼をし、同意を得て行った。

なお、本調査は十文字学園女子大学における人を対象とする研究に関する倫理指針(平成23年4月1日制定 平成30年9月6日最終改正)に則ったものであり、かつ、十文字学園女子大学研究倫理委員会より倫理審査の承認を得ている(承認番号: JEC 2023004)。

本調査方法として、基本的なスーパービジョンに関する定義を提示したうえで、自身の仕事における困難対応、スーパービジョン経験、考えについてインタビューを行ったあとに、スーパービジョンの基本知識に関わる講義を30分程度行い、終了後、インタビューを再開し、講義を踏まえたインタビューで考えを聞いた。

結果として、ソーシャルワーク業務経験年数、以前のスーパービジョンを受けた経験並びに業務の困難対応と合わせて、スーパービジョンの基本知識を確認することに関してスーパービジョンへの期待や態度に影響があることがうかがえた。また、経験年数に限らず、ほとんどの回答者が講義を聞いたうえで改めてスーパービジョンを受けることによって、スーパービジョンに対してより積極的な態度になるという変化が見られた。

以上の結果から、成長に応じるスーパービジョンのモデルとして、スーパービジョン関係の在り方、業務で困難と感じることとスーパービジョンの内容、焦点への着眼、スーパーバイザーからの専門性の提示などがスーパーバイザーのアセスメント結果を踏まえて行われることが必要であり、かつ、スーパービジョンを積極的に活用することには、基本的なスーパービジョンに関する知識の共有、つまりは意図的な契約時におけるスーパービジョンの基本定義、方法の共有が有効であることがうかがえた。

よって、経験に応じたニーズ把握、ならびにソーシャルワーク・スーパービジョンの契約を明確に行うこと、特にスーパービジョンの基本的な構造や展開方法確認できることをスーパービジョン並びにスーパーバイザー養成研修のモデルに位置付けることが必要であると考察した。

さらにスーパービジョンモデルを精緻化していくにあたっては、対象を広げた検証を重ねていくことを今後の課題とした。

(3) スーパーバイザーの成長ニーズに応じたスーパービジョンを実現する展開モデルの提示並びにスーパーバイザー研修、支援体制の指針提示を試みることにしていたが、スーパーバイザー研修や支援体制の指針提示のための計画を実施することが出来なかった。成長ニーズのさらなる検討と経験豊かなスーパーバイザーからの意見聴取を踏まえて検討していくことは今後の課題となっている。

引用文献

社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会、ソーシャルワーク専門職である 社会福祉士に求められる役割等 について 平成 30 年 3 月 27 日、2018

野村豊子、序章ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの文化の醸成-ソーシャルワーク・スーパービジョンの現状と課題-、一般社団法人社会福祉教育学校連盟(監修)、ソーシャルワーク・スーパービジョン論、中央法規出版、2015、37 .

International Federation of Social Workers , Effective and ethical working environments for social work: the responsibilities of employers of social workers , 2012

<http://ifsw.org/policies/effective-and-ethical-working-environments-for-social-work-the-responsibilities-of-employers-of-social-workers-3/>

前掲 P20

kadushin, A. & Harkness, D. Supervision in Social Work (5th ed.). Columbia University Press . 2014

大友秀治、日本のソーシャルワーク・スーパービジョンに関する近年の動向、学校ソーシャルワーク研究、10、2015、60-71 .

認定社会福祉士認定・認証機構、社会福祉士制度 スーパービジョン実施要綱 2012 年 7 月 28 日施行、最新改正 2017 年 3 月 12 日

岡田まり・野村豊子・片岡靖子・岡本民夫、ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの有用性-社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価に向けて-、日本ソーシャルワーク学会第 33 回大会、2016

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片岡 靖子 (Kataoka Ysuko) (30389580)	久留米大学・文学部・教授 (37104)	
研究分担者	岡田 まり (Okada Mari) (40309076)	立命館大学・産業社会学部・教授 (34315)	
研究分担者	野村 豊子 (Nomura Tyoko) (70305275)	日本福祉大学・スーパービジョン研究センター・研究フェロー (33918)	
研究分担者	潮谷 有二 (Shiotani Yuji) (90285651)	長崎純心大学・人文学部・非常勤講師 (37302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関